

遠慶

おんきょう



寺院めぐり 三条組 専正寺

新潟教区報 第110号

2015(平成27)年6月30日発行

三条組 専正寺

廣川山専正寺の創建は、天正十年（一五八二）開基慶順が、本願寺第十一世宗主顕如上人に帰依し、高野山真言宗から浄土真宗に改宗したことによると伝えられております。

以来、信州水内郡太田庄大倉村に移り居住。その後、越後高田常敬寺末に連なり、更に各地を転々とし、真宗二世慶智、寛永十七年（一六四〇）門信徒の希望により現在の地に伽藍を建立したものであります。

爾来三七〇余年に亘り、本堂の焼失や度重なる災害等の困難を乗り越えて、間法の道場として役割を果たしてまいりました。

これも偏に門信徒はじめ有縁の方々のおかげによるものと感謝を致すところであります。

山門にかかっておりますのは、子ども会の子どもたちと協力して作成いたしました、鯉のぼりの幕です。鯉のぼりや天の川など季節に応じて、子どもたちと一緒に作成した幕を飾っております。

住所 〒九五四一〇一〇四 新潟県見附市坂井町一二九七一甲

寺院めぐりのコーナーでは、教区内の各ご寺院のご紹介をさせていただきます。ご寺院の沿革や由緒、力を入れて取り組んでいる事などを教えてください。ご協力、よろしく願います。

「非戦の誓いを新たに」

～戦後70年の今、戦争を知り考える～

戦後70年記念事業

第18回 新潟教区 平和を誓う念仏者のつどい

2015(平成27)年8月29日(土) 13時より

本願寺新潟別院

編集／浄土真宗本願寺派 「御同朋の社会をめざす運動」新潟教区委員会 広報部会
発行者／新潟教区教務所長 野村宗雄

〒940-2402 新潟県長岡市与板町与板乙4356本願寺新潟別院内

Tel: 0258-72-2120 Fax: 0258-72-2536

サーバー閉鎖に伴い、別院・教区ホームページが移転いたしました。
新ホームページアドレスは → <http://nkyouku.jimdo.com/> です。

社会問題研修会『福島原発事故から見た原発の問題点』

平成二十七年三月十日(火)

与板組 雲外寺 真敷 祐孝

福島第一原発事故から四年経過しましたが、いまだに現場検証も行えない状況が続いています。事故現場に入れなかったなら事故の原因を見つけることも、今後の対策を検討することもできません。原発の安全神話はもろくも崩れました。

それなのに再稼働へ向けて着々と準備が整えられています。これほどの大事故を引き起こして、しかも終息の目途もたっていない。それなのになぜ原発にこだわっているのか、多くの方が疑問を持たれているのではないのでしょうか。

三月十日に開かれた社会問題研修会では、講師の長田浩昭さんより詳細なデータを基に丁寧にお話しくださり、これらの疑問を解くカギをいただきました。

お話では、日本の社会は電力会社を中心とした構造であること。政官・経済・学界・マスコミ等、各方面で原発利権の影響を受けている。また、原子力の平和利用を表に出した日本の原子力政策の発端は核兵器の保有を目的としたものであったこと。電力は十分に足りているのに原発にこだわるのは、原発がもたらす莫大な利権と核保有の夢を捨てきれない一部の人の思惑がその背景にあるのだと指摘されました。

これから何十年にわたって原発事故の後始末と放射能の被害に悩まされる事態に直面しています。それは、自分たちの世代だけではなく次の世代にも大きな重荷を背負わせてしまいました。まさに五濁の世を私たちの世代で作り返してしまっただけです。

この度の研修会では原発や原子力に関してあまりにも無知であったことが知らされました。「原発問題はいのちを奪う問題」として長田さんは取り組んでいらっしやいます。今度は私たち一人ひとりが自ら調べ、学び、行動していかなければいけない。そのことを強く感じた研修会でした。

最後に、アメリカ先住民のホピ族を紹介してくださいました。ホピ族の居留地の山からウラン鉱石が採取できることがわかると、放射線被曝の危険を一切告げられず、鉱山で働かされ続けて、白血病などを発症しつつ、現在もこの彼らの悲惨な犠牲の上で、日本の原発も動いている。このホピ族が大切にしている世界観

「この豊かな大自然は七代先の未来の子孫からの預かりものである」

を日本人に向けたメッセージとして紹介してくださいました。

講師プロフィール 長田浩昭 (おさだひろあき)

一九六〇年生まれ。兵庫県篠山市真宗大谷派法伝寺住職。原発事故以降、福島に赴き、子ども達を避難させる活動を続ける。高速増殖炉「もんじゅ」臨界事故を契機に結成の「原子力行政を問い直す宗教者の会」事務局。

著書：真宗ブックレット『いのちを奪う原発』（共著・東本願寺）、青草ブックレット『原子力神話（鬼神）からの解放』など。



2011年度 社会問題研修会
柏崎刈羽原子力発電所見学の様子

新潟教区活動報告(2015年2月後半～2015年6月前半)

2月	
9日(月)～10日(火)	第1連区青年布教使研修会『親鸞さまの魅力を現代に!～阿弥陀さまの温もりに出遇えたよろこびを確かめあい、わかちあいましょう～』サブテーマ『現生正定聚』(北海道教区担当・3名参加) 講師 安方 哲爾 氏(本願寺派布教使・大阪教区正満寺) 現生正定聚についての基本的な講義の他、寺族僧侶にありがちな教義的な誤解を、実例を交えてお話いただきました。2日目は各教区青年布教使の布教実演を聴聞いたしました。
10日(火)～12日(木)	震災支援ボランティア活動(震災支援を続ける会)(1名参加) 福島県いわき市内にある応急仮設住宅にて、震災復興支援活動の炊出しやイベントが行われました。
14日(土)～15日(日)	第15回ビハーラ活動全国集会『ビハーラものがたりの新展開』(教区3名参加・総参加者313名) 講師 志慶眞 文雄 氏(しげま小児科医院院長) ご講師の基調講演「生死を超える道としてのビハーラ」を受けて、分散会で話し合いを行いました。2日目は10の分科会で、講師からの発題をもとに話し合いが行われました。
15日(日)	連研履修者研修会『私は差別をしたことはありません。なぜ差別はなくならないのでしょうか。私は何をすればよいのでしょうか。』(47名参加) 講師 真敷 祐孝 氏(研修講師・新潟教区与板組雲外寺) 参加者より、「差別はなくならないのでは」との意見もあり、今後各組の連研において差別問題をテーマとする際の進め方、まとめ方、受講者への伝え方について、スタッフ間で十分検証し、差別問題に対する正しい認識の周知徹底をはかっていくための継続した取り組みが必要であると考えられます。
3月	
1日(日)	得度習礼講習会(2名参加) 得度習礼に向けての心得と、必要な勤行・作法・衣体の畳み方などの講習会が行われました。
9日(月)～11日(水)	震災支援ボランティア活動(震災支援を続ける会)(5名参加) 福島県いわき市内応急仮設住宅にて、震災復興支援活動の炊出しや追悼法要が行われました。
10日(火)	社会問題研修会『福島原発事故から見た原発の問題点』(27名参加) 講師 長田 浩昭 氏(「原子力行政を問い直す宗教者の会」事務局・真宗大谷派法伝寺) 福島第一原発事故を通じ、宗教者・念仏者として生活の中での原発問題の関わりについてお話しいただきました。詳細は2ページをご覧ください。
23日(月)	定期教区会(13名出席)・責役総代会(10名出席) 平成26年度教区・別院補正予算案並びに平成27年度教区・別院予算案等の審議が行われ、議決されました。
4月	
9日(木)	冬囲い撤去作業(30名参加) 門徒推進員さんにより、冬囲いの撤去と境内地の竹林・樹木の整備が行われました。 常例布教(32名参拝) 講師 松山 公昭 氏(本願寺派布教使・国府教区川東組浄福寺)
13日(月)	ビハーラにいがた総会・観桜会(総会7名参加・観桜会33名参加) 総会では平成26年度活動・決算報告と平成27年度活動計画・予算案が審議され、承認・議決されました。観桜会では介護老人保健施設の入所者・職員をお迎えして、甘酒接待や歌とお話で交流を図りました。
21日(火)～23日(木)	震災支援ボランティア活動(震災支援を続ける会)(3名参加) 福島県いわき市内にある応急仮設住宅にて、震災復興支援活動の炊出しやイベントが行われました。
5月	
20日(水)	仏教婦人会研修総会『仏教婦人会の活性化に向けて』(99名参加) 講師 野村 康治 氏(仏婦総連盟講師・大阪教区瑞松寺) 総会では平成26年度活動・決算報告と平成27年度活動計画・予算案が審議され、承認・議決されました。研修会ではお仏壇中心の生活の中から家族の中にご縁が広がり、自分の姿を通して身近な人がお念仏を感じる事が出来、活性化へとつなげていく事ができるというお話をいただきました。
22日(金)	門徒総代会研修総会(1)『門徒総代のしおり』に学ぶ(2)首都圏における伝道の現状について(48名参加) 講師 山本 政秀 氏(築地本願寺副宗務長) 実践運動の歩みや、各種法規のうえから、門徒総代のあり方について学びました。
30日(土)～31日(日)	第15回仏教婦人会世界大会『いだかれて ともにつながる わたしのいのち』(カナダ・カルガリー市・教区5名参加) 梁瀬奈々さんによるコンサートやパトリシア・ウスキ開教師による講演・懇親会などがおこなわれました。
6月	
7日(日)	仏教壮年連盟研修総会「法統継承に際してのご消息」や「伝統奉告法要についてのご消息」から学ぶ、仏教壮年としての課題(21名参加) 講師 野村 宗雄 氏(新潟教区教務所長・「実践運動」新潟教区委員会委員長) 総会では、「寺院仏教壮年会」未結成寺院へ、結成に向けた取り組み推進をはかることが確認されました。研修会では2つの御消息について学びを深め、み教えをいただくことの有り難さ、み教えを家族や身近な方々へ伝えていくことの大切さを改めて確認する事ができました。
9日(火)	門徒推進員連絡協議会清掃奉仕(25名参加) 門徒推進員さんにより、境内地の清掃作業が行われました。 常例法座(31名参拝) 講師 木賣 慈教 氏(本願寺派布教使・長野教区河西組西敬寺)

法話 ④ 長岡組 長永寺 木曾 隆

「お念仏はいつも届いている」

ビハラー病棟に六十代の男性Aさんが入院してこられました。病棟では毎日朝八時半と午後四時にお参りがあります。しかしAさんはお参りに出てくることはありませんでした。病室を訪ねるといつも一人静かに本を読んでいた。

言葉をかけても返事をしていただけません。しかし彼はいつもひとりぼっちでどこか寂しそうです。そんな時病棟でカラオケ大会をすることになり、私は仏教讃歌「みほとけにいだかれて」を歌いました。Aさんもじつと歌詞を見ていました。

終わって彼の部屋を訪問すると、歌詞を見ながら涙ぐんでいました。「いい歌でしょ？」というと、「俺も浄土に生まれることができるのか？」と尋ねられました。「参れますよ、お念仏の教えに出会えば」と答えました。それからAさんはお参りし、仏教の本を読むようになりました。彼のお母さんが「この子が仏様に手を合わせている姿を見て安心しました。思い残すことはありません」と涙ぐんでいました。

お念仏に出会ったとき阿弥陀如来の大きな慈悲にいだかれるのです。お念仏の救いは常に私たちに届いています。

法話のコーナーでは、新潟教区内の本願派布教使の方々に原稿を依頼しております。

○今後の予定 ご関係の皆様、多くのご参拝、ご参加をお待ちしております。

・新潟別院御取越報恩講・子ども報恩講・帰敬式

日時 平成27年6月25日(木)～27日(土)

会場 本願寺新潟別院

講師 谷間 徹誠 氏(本願寺派布教使・石川教区)

・総局巡回

日時 平成27年7月2日(木)13時30分より

会場 本願寺新潟別院

内容 ①第25代専如門主「法統伝承」について
②宗門総合振興計画について

・少年連盟サマースクール

日時 平成27年8月10日(月)～11日(火)

会場 本願寺新潟別院

内容 ウォークラリー・バーベキュー等

・第18回新潟教区平和を誓う念仏者の集い

戦後70年記念事業

日時 平成27年8月29日(土)

会場 本願寺新潟別院

テーマ 「非戦の誓いを新たに」

(戦後70年の今、戦争を知り考える)

内容 全戦没者追悼法要・記念イベント・記念講演

講師 安田 純平 氏(フリージャーナリスト)

ラジオ法話

新潟教区布教団による ラジオ法話

FMながあか 80.7

毎週月曜～金曜 16時15分より放送中です。

(放送地域は、長岡市全域、小千谷市、小国、川口、山古志、出雲崎、寺泊、和島、与板、見附、中之島、板尾)

身元調査

しない させない 許さない